

氏名	Abdulkadir Can Tekin		
学位	博士		
専門分野の名称	経済学		
学位授与番号	博甲第3375号		
学位授与の日付	平成19年3月23日		
学位授与の要件	文化科学研究科社会文化学専攻 (学位規則第4条第1項該当)		
学位論文題目	THE ROLE OF THE GOVERNMENT INCENTIVES & ASSISTANCE IN ENCOURAGING INVESTMENT AND EMPLOYMENT IN THE UK		
学位論文審査委員	主査・教授 下野 克巳	教授 黒川 勝利	
	教授 松田 陽一	教授 榎本 悟	

学位論文内容の要旨

本論文は、現在の英国（連合王国）において投資と雇用とを促進するための政府による奨励金および援助が地域介入政策として果たしている役割の解明を目的に、英国の中でも人口密度や失業率などの社会経済的状态で最も遅れていた地域といわれているスコットランドを研究対象地域として、大きなプロジェクト援助プログラムであるRSA（地域別選別援助）制度を中心に提起して、総合的・具体的・実証的な調査・分析・考察を行い六つの章から成る学位論文として整序したものである。分量はA4版 180ページ余である。

1 INTRODUCTION

まず最初に研究対象地域であるスコットランドの近年の地域的・社会経済的な状態と関連先行研究の現状を検討して課題を設定している。これまでも大きなプロジェクト援助であるRSA制度の研究は数多くあったが、その多くがイギリス全体とはいえず主にイングランドの範囲で行われていて、スコットランドを中心とするものは決して充分であるとはいえなかった。そこで筆者は、英国政府がどのようにしてRSA制度によって後発地域であるスコットランドを社会経済的に活性化しようとしてきたか、また外資系企業に対してどのようにアピールしているかということ念頭に、研究課題を整理・設定して、本研究の意義を示した。

2 SCOTISH ECONOMIC STATISTICS

ここではスコットランド行政府や英国政府の統計資料などに基づいて、21世紀初頭のスコットランド経済の概要、産業企業活動の状態、雇用者の産業別・企業規模別状態などを考察するとともに、スコットランド産業におけるR&D活動、高等教育と産官学の関係、特許権の数などの状態を検討して、英国全体の中でのスコットランドの位置付けを行っている。

3 THE FOREIGN DIRECT INVESTMENT IN SCOTLAND

先行研究業績や政府機関統計などに基づいて1987年から2004年までのスコットランドへの直接投資を検討しており、外資系企業だけでなく国内企業による投資も分析している。とくに2001年にはスコットランドに900以上の外資系企業が立地していたが、1991年からの十年間にエレクトロニクス関係企業を中心に742の外資系企業が立地して約90億ポンドの投資をして約11万人の雇用を確保していることに注目し

ている。そして、国外の投資家をスコットランドに引き付ける要因を統計的に明確にするように分析・努力している。

4 A REVIEW OF THE REGIONAL SELECTIVE ASSISTANCE IN SCOTLAND

スコットランドにおけるRSA制度の特徴と審査基準や、RSA制度の対象となった企業の成功例が地域の投資家を引き付けた積極的な影響や、サッチャー時代の雇用の回復のためにRSA制度が与えた効果などを、先行研究も参照しながら考察している。英国政府は革新的製品の開発とR&Dを重視しているが、スコットランドにおけるシリコングレンやテクノロジーパークなどに進出してきた海外の企業や研究所を分析して、そうした成果はRSA制度を利用した企業がほとんどであることを明確にした。また、RSA制度のプロジェクト数、応募企業数、応募企業国籍、援助総額等を細かく分析して、雇用見込みとRSA制度の成功効果を明らかにした。さらに、助成金の最高金額はEUのガイドラインにより決められているにもかかわらず、英国政府はその最高金額など運用の詳細を明らかにしていないことなども調査・確認している。

5 PITFALLS & DRAWBACKS OF RSA

これまでの章では主として成功面を明らかにするために、スコットランド行政府や英国政府の機関によって出版された白書および統計資料に基づいて検討してきたが、ここではRSA制度におけるプロジェクトの応募過程と援助対象となるための審査基準に焦点を当て、RSA制度の運用実態でのおとし穴や欠点やプロジェクトの失敗などの問題点を明らかにするために、筆者自身が現地に赴いたりして4年間かけて収集してきた資料やスコットランド地域労働連盟およびスコットランド議会議員の証言や地元の投資家の論述などに基づいて、具体的かつ慎重に考察・実証している。

6 CONCLUSION

以上の調査・分析・考察などをまとめてスコットランドにおけるRSA制度の役割に関する研究の結論を述べるとともに、今後に残された課題・展望についても述べている。

学位論文審査結果の要旨

学位審査会は、平成19年2月8日に学内審査委員4名によって行われた。審査結果は以下の通りである。

本論文は、現在の英国（連合王国）において失業問題などの社会経済的状態やエレクトロニクス企業などの産業企業的展開の面で立ち遅れが否めなかったスコットランドを研究対象地域として、英国政府の投資と雇用の促進するための奨励金および援助による地域政策が現実に果たしてきた役割を解明するために、大きな援助プロジェクトであるRSA（地域別選別援助）制度を取り上げて、それがスコットランドの社会経済活動に積極的な役割を果たしてきた側面も指摘できるものの、同時にいろいろな問題点が含まれていることを具体的に明確にしようとした論文である。

本論文の評価点として、まず第1に、次のような特筆すべき研究方法があげられる。それは、いろいろな問題点（運用実態面でのおとし穴や欠点や失敗例など）が含まれているRSA制度の現状を具体的に解明するために、4年間かけて筆者自身が現地に赴いて資料を収集したりスコットランド地域労働連盟およびスコットランド議会議員の証言や地元の投資家の陳述を得たりして、肯定的な評価に傾きがちな白書・統計資料などのスコットランド行政府や英国政府機関の出版物による分析の限界を超えようとする地道な実証分析努力をして具体的な確信を得て論述していることである。

第2に、21世紀に入っのRSA制度はむしろ筆者が具体的な事例を挙げて指摘しているように問題点が多くあることも明らかであるとはいえ、そのことをより全体的な視野から歴史的・客観的に位置付けようとしていることである。すなわち、英国全体の中で従来からスコットランドが地理的・経済的にどのよ

うに立ち遅れた状態にあったかを考察するとともに、現在ではエレクトロニクス系企業を中心に 900 社以上の外資系企業が活動するようになっているが、特に 1990 年代において R S A 制度を中心とした政府の支援・奨励策などによって 742 件で約 90 億ポンドの投資プロジェクトがなされ約 11 万人の雇用が確保されたと見られるなど、かなりの成果を挙げてきていることも統計資料などによって詳細・明確に検討していることである。

第 3 に、E U 加盟国の拡大とアメリカ合衆国主導のグローバリゼーションが進展している 21 世紀の現時点においては、R S A 制度の運用による外国直接投資のスコットランドへの誘導がますます困難になっていくであろうと想定されていることと、英国政府によって制度の特異な運用（助成金の最高金額の非公表や審査基準の未発表などによる複雑・柔軟な運用）がされていること、さらに助成金の適用を受けた進出大企業によって 2000 年以後の 4 年間で 3000 人ももの解雇がなされていることなど、具体的で詳細な内容にまで調査をしていることである。

一方で各審査員から、スコットランドにおける英国政府による R S A 制度を運用した投資と雇用奨励のための助成金・援助政策とその効果についての具体的で詳細な研究としては十分に評価できるものの、いくつかの検討すべき問題点があることが指摘された。

第 1 に、「6 CONCLUSION」では、それまでの筆者による調査・考察をふまえて論点を明快に整理してより明確に結論的な見解を論述すべきであるということである。

第 2 に、第 1 の問題とも関連するが、審査会で筆者が今後の課題として述べたアメリカ合衆国系の外資系企業のシェアの大きさの論理的な位置づけや E U 加盟国の拡大による英国への援助割合の減少と R S A 制度の今後の運用との関連などについても、より明確に整理できたのではないかと指摘である。

いずれの指摘も本研究を今後いっそう深化・進展させるためには必要な問題提起と考えられるが、これらを念頭においても今回の本論文の研究成果を揺るがすものではないと判断された。

以上の審査結果から、本論文を博士の学位論文として認定することについて全員一致で合意した。